

山形大学校友会専門委員会（第15回）議事録

平成26年5月29日（木）
15時00分～16時40分
山形大学事務局役員会議室

（議 題）

- 1 平成25年度事業報告及び収支決算について
- 2 平成26年度事業計画及び収支予算について
- 3 校友会設立10周年記念事業について
- 4 その他
 - (1) 「山形大学卒業生若手の集い（仮称）」について
 - (2) 「卒業生の人財バンク登録事業（仮称）」について
 - (3) 「山形大学同窓会・校友会首都圏ネットワーク」について
 - (4) 小白川～飯田キャンパス間の通学用シャトルバスについて
 - (5) メールマガジンによる情報配信について
 - (6) 理学部建物火災に伴う学生支援について
 - (7) 平成26年度山形大学OB・OGセミナーの開催日について
 - (8) その他

（出席者）

委員長： 酒井順一
委員： 國方敬司、丹野憲昭、大場好弘、神戸士郎、岩城功希

（欠席者）

委員： 佐藤和佳子

（列席者）

小関エンロールメント・マネジメント部長、鈴木EM企画課副課長、
大沼校友会事務局長、山口校友会事務局次長、渡部係員

議事に先立ち、事務局から、本年4月1日付けで新たに本専門委員会委員となった國方委員（阿部宏慈人文学部委員の後任）と大場委員（小山清人前担当理事の後任）の紹介があった。

1 平成25年度事業報告及び収支決算について

委員長から本件について提案があり、事務局から、「平成25年度事業報告一覧」、「平成25年度事業報告書（個別）」及び「平成25年度収支決算書（案）及び監査報告」について資料1、資料1-1及び資料2に基づき説明があった。また、丸山監事と寒河江監事による会計監査が行われ、特段の指摘事項等がなかった旨も併せて報告があった。

次いで、委員長から本件について諮られた結果、原案どおり了承され、次回の理事会へ提案することになった。

2 平成26年度事業計画及び収支予算について

委員長から本件について提案があり、事務局から、「平成26年度事業計画書提出一覧」、「平成26年度事業計画書（個別）」及び「平成26年度収支予算書（案）」について資料3-1、資料3-2及び資料4に基づき概ね次のような説明があった。

（内容）

- (1) 平成26年度の申請件数は、継続事業15件及び新規事業15件の合計30件で総額51,246千円となっている。

- (2) 平成 26 年度の予算については、会費収入は一般会員の増を見込み 2,000 万円とし、繰越金 1,700 万円と合わせて総額 3,700 万円となるが、事業計画全体の規模は 2,700 万円程度としたい。
- (3) 継続及び新規事業の審査に当たっては、「平成 26 年度校友会事業計画に係る経費の配分に当たっての考え方(資料 4 の添付資料)」を基本としたい。
- (3) 継続事業には、本年度すでに実施済みの事業 (No. 13) も含まれている。
- (4) 校友会大学院生表彰制度 (No. 29) による記念品は、奨励金 5 万円としたい。
- (5) 「山形大学雪合戦大会 (No. 16)」と「大学歌の普及活動 (No. 17)」は、昨年度で 5 年間の継続事業が終了したので、今回から新規の事業として取り扱う。

説明の後、委員長から、継続事業と新規事業に区別して審査を行いたい旨の提案があり、事務局から、「採択額の検討資料(資料 4 の参考資料)」等に基づき順次説明の後、それぞれの審査を実施した。

主な意見・要望等は次のとおり。

- 他学部との学生交流という点では、工学部が中心となって冬に実施する「雪合戦大会 (No. 16)」や農学部・鶴窓会が夏に実施する「ビーチサッカー大会 in 庄内 (No. 5)」があるが、現在、小白川キャンパスにはそういうものがない。
できれば、例えばフットサル大会など学生が主体的に取り組み、全学の学生が交流できるものを小白川キャンパスが主体となって実施できないものか。
- 「山形大学雪合戦大会 (No. 16)」は米沢雪灯籠まつりに合わせて実施してきたが、後期試験の時期とも重なるため、参加チームや学生スタッフの確保の面で苦慮することもあり、平成 26 年度は実施日を変更することを検討中と伺っている。
- 「大学歌の普及活動 (No. 17)」に当たっては、卒業式などにおいて学生全員で大学歌を謳歌できるよう、普及活動において工夫してもらいたい。
- 予備費の 200 万円の使い方として新入生への記念品購入を考えているのであれば、事業費として組み入れてもいいのではないか。
- 新規事業の「校友会推薦図書コーナー (No. 25)」については、単に図書の購入に止まらず、学生による“ビブリオバトル”を開催するなどより広がりをもった取り組みにしてもらいたい。
- 「実践教育プログラム実地研修遠隔地費用支援 (No. 27)」におけるレンタカーを学生が利用する件は、さまざまな問題もあり現時点では難しいのではないか。
- 申請された事業の中には、どちらかと言えば学部等が第一に取り組むべきではないかと思われる事業も多く含まれているように感じる。

種々審議の後、委員長から本件について諮られた結果、次のとおり了承され、関係資料整理の上、次回の理事会へ提案することになった。

事業 1	継続 (100 万円)	・・・前年度と同額
〃 2	継続 (15 万円)	・・・前年度と同額
〃 3	継続 (50 万円)	・・・前年度と同額
〃 4	継続 (100 万円)	・・・前年度と同額
〃 5	継続 (70 万円)	・・・前年度実績を勘案し申請額のとおり
〃 6	継続 (100 万円)	・・・申請額のとおり
〃 7	継続 (300 万円)	・・・派遣学生数等を考慮し増額
〃 8	継続 (100 万円)	・・・他事業との併用により減額
〃 9	継続 (200 万円)	・・・前年度と同額
〃 10	継続 (200 万円)	・・・前年度と同額

〃 1 1	継続 (1 0 0 万円)	・・・本学のグローバル化等を重視し増額
〃 1 2	継続 (1 2 0 万円)	・・・派遣学生数等を考慮し前年度と同額
〃 1 3	継続 (6 0 万円)	・・・前年度実績等を考慮し減額
〃 1 4	継続 (4 0 万円)	・・・前年度実績等を考慮し減額
〃 1 5	継続 (4 0 万円)	・・・開催場所を考慮し減額
〃 1 6	新規 (採 択)	・・・5年経過したが引き続き全学の学生交流支援 (1 0 0 万円)
〃 1 7	新規 (採 択)	・・・5年経過したが学生への更なる普及が必要 (3 0 万円)
〃 1 8	新規 (採 択)	・・・地域に貢献できる事業 (3 0 万円)
〃 1 9	新規 (不採択)	・・・学部単独事業
〃 2 0	新規 (不採択)	・・・学部単独事業
〃 2 1	新規 (不採択)	・・・学部単独事業
〃 2 2	新規 (不採択)	・・・学部単独事業
〃 2 3	新規 (採 択)	・・・所要額を精査し計上 (3 0 万円)
〃 2 4	新規 (採 択)	・・・所要額を精査し計上 (1 0 0 万円)
〃 2 5	新規 (採 択)	・・・所要額を精査し申請とおり (3 0 万円)
〃 2 6	新規 (採 択)	・・・所要額を精査し計上 (5 0 万円)
〃 2 7	新規 (不採択)	・・・レンタカーの学生使用等に疑義
〃 2 8	新規 (採 択)	・・・所要額を精査し計上 (1 2 万円)
〃 2 9	新規 (採 択)	・・・所要額を精査し計上 (1 0 0 万円) (記念品は、奨励金として1人に 5 万円)
〃 3 0	新規 (採 択)	・・・所要額を精査し計上 (4 0 万円)
	予備費 (2 0 0 万円)	・・・「調整財源」として予算計上 (新入生記念品代にも充当)
合 計 (2 , 3 1 7 万円)		

3 校友会設立10周年記念事業について

委員長から、本件について事務局は平成28年12月に校友会は設立満10周年を迎え記念する事業を企画したいと考えており、次の2点を次回の理事会に提案したい旨説明があった。

イ 平成28年度において、校友会設立10周年記念事業を実施する。

ロ 理事会の下に記念事業に係る「企画検討ワーキング」を立ち上げ、会長(学長)が委員若干人を委嘱し検討させる。

次いで、委員長から本件について諮られた結果、原案どおり了承され、次回の理事会へ提案することになった。

4 その他

委員長から、その他として次の7項目について報告したい旨発言があり、順次、事務局から説明があった。

なお、必要により理事会においても意見を聴取することとした。

(1)「山形大学卒業生若手の集い(仮称)」について

本件について事務局から概ね次のような説明があり、次回の理事会に報告することとした。

(内容)

- ① 校友会の会員数は、現在、在学生、卒業生、教職員など、すでに1万5千人を超えており、その半数以上が卒業生という現況にある。
- ② 例えば、卒後5年程度の若い卒業生に限定し、学部横断的に「山形大学卒業生の集い」を実施したい。
- ③ 平成26年度は、東京や山形で試行的に実施したい。
- ④ 先輩社会人が「社会人1年生を激励する会」のようなイメージとしたい。
- ⑤ 山形大学を卒業した社会人1年生の会費は低い額としたい。
- ⑥ 企画及び幹事は先輩のOB&OGに委嘱し、次年度以降は、幹事を後輩に引き継ぐこととしたい。
- ⑦ 就職課の協力を得て、就職課と校友会事務局とのコラボ企画としたい。

(2)「卒業生の人財バンク登録事業(仮称)」について

本件について事務局から概ね次のような説明があり、次回の理事会に報告することとした。

(内容)

- ① “オール山形大学コミュニティー”の醸成と強化を目指し、「卒業生の人財バンク登録事業」をスタートさせたい。
- ② 卒業生の中から人財バンクに登録いただき、山形大学の学生に対して講演や相談・就職アドバイス等を担当いただくものである。
- ③ 卒業生の人財バンク登録に当たっては、できるだけ各学部同窓会等を通じて推薦してもらうこととしたい。
- ④ 人財バンクに登録された卒業生には、一定の期間内に後輩学生に対する講演等をお願いすることになる。
- ⑤ 登録いただいた卒業生には適当な「称号」を付与することも考慮したい。

(3)「山形大学同窓会・校友会首都圏ネットワーク」について

本件について事務局から概ね次のような説明があり、次回の理事会に報告することとした。

(内容)

- ① 首都圏にある山形大学同窓会と校友会との連携協力が図られることを期待して、平成25年12月に「山形大学同窓会・校友会首都圏ネットワーク」を立ち上げた。
- ② 初代会長には鶴窓会関東支部の岩城功希さんが就任している。
- ③ 今年の3月に開催した山形大学OB&OGセミナーでは、早速、それぞれの同窓会参加者の受付をはじめ協力をいただいた。
- ④ 前回の理事会に本件を報告したところ、「当該ネットワークの目的や事業は理解できるものの、規約第5条に関する表現を見直してもらいたい。」旨の要望があった。
- ⑤ 必要な規約の見直し等も含め、本年12月20日開催の当該ネットワーク総会において審議する予定である。

(4) 小白川～飯田キャンパス間の通学用シャトルバスについて

本件について事務局から概ね次のような説明があり、次回の理事会に報告することとした。

(内容)

- ① 本件は前回の本専門委員会において話題となり、医学部としての考え方を整理して改めて検討することとしていたものである。

- ② その後、医学部において、シャトルバス運行の効率性や経費面から総合的に検討され、当面は現行のままでも仕方がないとの結論を得たものである。
- ③ その結果、特段の対応はしない。

(5) メールマガジンによる情報配信について

本件について事務局から概ね次のような説明があり、次回の理事会に報告することとした。

(内容)

- ① 本件は、卒業生、在学生、教職員が利用できる SNS として、山形大学「やまがた・ゆうネット」を立ち上げるべく、現在準備中である。
- ② 立ち上がるまでの間、広報活動の手段としてのホームページ、会報、ニューズレターに加え、メールマガジンを開始して情報を発信したい。
- ③ 6月中には発信すべく準備中である。

(6) 理学部建物火災に伴う学生支援について

本件について事務局から概ね次のような説明があり、次回の理事会に報告することとした。

(内容)

- ① 本件については、前回の理事会で話題となったものであるが、幸いにして学生への被害(パソコンなど)は少なかったとのことである。
- ② 学生への直接的な被害の対応についてもほぼ終了したと伺っている。
- ③ そのようなことから、校友会として今回の火災では特段の対応は見送ることとしたい。

(7) 平成26年度山形大学OB・OGセミナーの開催日について

本件について事務局から概ね次のような説明があり、次回の理事会に報告することとした。

(内容)

- ① 本件は、平成27年3月7日(土)に山形大学東京サテライトを会場として開催するので、ご承知置きいただきたい。
- ② 今回で第10回目の記念となる OB・OG セミナーであり、何か良いアイデアや要望等があればお寄せいただきたい。

(8) その他

特になし

配付資料一覧

- 山形大学校友会専門委員会（第15回）次第
- 山形大学校友会専門委員会委員一覧（H26.4. 1 現在）

[資料一覧]

- 資料 1 平成25年度事業報告一覧
- 資料 1-1 平成25年度事業報告書（個別）
- 資料 2 平成25年度収支決算書（案）及び監査報告
- 資料 3-1 平成26年度事業計画書提出一覧
- 資料 3-2 平成26年度事業計画書（個別）
- 資料 4 平成26年度収支予算書（案）
（採択額の検討資料を含む。）

[参考資料]

- 1 山形大学校友会会則
- 2 山形大学校友会専門委員会規程
- 3 山形大学大学院校友会大学院学生表彰に関する申し合わせ
- 4 山形大学同窓会・校友会首都圏ネットワーク規約
- 5 校友会専門委員会第14回議事録（H26.1. 28）
- 6 校友会理事会第15回議事録（H26.2. 14）
- 7 平成26年度継続事業（H25.2. 14 理事会承認）
- 8 留学報告書（平成22-24年度）
—大学間交流協定大学への短期派遣留学生支援事業—
- 9 企業訪問報告書2014
- 10 山形大学校友会ニューズレター No.1
- 11 「山形大学校友会」に関するQ&A